

第29回街歩き

箱根登山鉄道『夜のあじさい号』編

あじさいが彩る幻想的な夜

2006.6.28

上田 夏子+向田 麻衣

■普段は煌々と明るい車内ですが、あじさいを見るため車内を暗くするというあじさい電車。今回はあじさいの開花が遅れ、残念な箇所もありましたが、ホテルの光が飛び交う光景に出会ったり、登山鉄道の車掌のアナウンスが可笑しかったり、団員の笑顔がたえない調査でした。

あじさいのライトアップポイントで『夜のあじさい号』を地上から観察する3チームと電車の中から観察する1チームに分かれて、計4チーム24名の照明探偵団員が参加して調査を行いました。地上からの3チームは、それぞれ[1]大平台周辺、[2]宮ノ下駅、[3]彫刻の森周辺です。

[1] 大平台周辺

今回、あじさいの花が一番見頃だったのが大平台です。トンネルの上から、丘の途中から、無人の踏み切りから各自構えての撮影大会となりました。

[2] 宮ノ下駅

唯一あじさい号が10分ほど停車し、線路に降りて観察できる宮ノ下駅では、赤や青、緑のカラーライティングが見られました。

[3] 彫刻の森周辺

まだ二部咲きといったところでしょうか。無人踏切では、電車で詳しくな方と遭遇しました。残念だったのは、床置きで、電車からは死角となる位置に器具があるのですが、あちらこちら向いているライトアップの照明器具のグレアが私たちの写真撮影に影響を及ぼしたことです。フードやルーバなどで、配光を制御すれば、より目に優しく綺麗なあじさいが楽しめるのではないのでしょうか。また残照のある時間帯には、ほんのりと色付いた花が下からライトアップされて劇的な演出のように感じられましたが、闇が深まるにつれて、おどろおどろしい表情へと変化していきました。

[4] あじさい号車内から

いつも明るいはずの電車が暗い！暗い車内では、ライトアップの光が入り込むと荷物置き網が面白い影を天井に映し出しました。明るい車内では、そんな影が出ることはもちろん無いし、人の顔が平坦な表情に見えることもしばしばです。初めて見る暗い車内が気持ちを高揚させていきます。

「季節はずれのイルミネーションではありません。」という車掌のアナウンスを耳にして、闇の電車内から私たちが目にしたのは、幻想的なホテルの光でした。驚きの余り、涙が出そうほど感動的な世界が車窓に広がっていました。

2006年のあじさいライトアップは既に終了していますが、来年も行われると思います。是非、あじさいの幻想的な夜の景色を味わいに足を運んでみて下さい。

(上田夏子)



大平台駅周辺を走る『夜のあじさい号』

■この季節、あじさいは美しく箱根の山を彩る。登山電車から観られるあじさいを夜も楽しめるように、ということでライトアップが始まったという。電車が動き出すと車内の明かりが落とされ、あじさいをライトアップしているポイントに到着すると車内は真っ暗になり、光に照らされたあじさいが私たちの目を楽しませてくれた。山間の暗闇に行く電車はそれ自体よいものだが、普段は体験することのできない真っ暗な車内から外の光を感じるというのも素敵な体験だった。宮ノ下駅に到着すると、一番ライトアップに力を入れている場所があり、乗客も一旦そこで外に出て記念撮影をする場面もあった。

団員からは、「下からあじさいを照らすと、光源がまぶしくて目を刺してしまうので、上から照らしたほうがよいのでは？」という意見も聞かれた。また、「ライトアップのポイントを作るのもよいが、電車でライトをつけて照らしながら走れば全ての花を觀賞できるのではないか。」といった意見や、「電車が終点に到着する際、真っ暗な状態の車内を突然蛍光灯の明かりで照らすのは少し唐突だった。徐々に明るくするなどの工夫があればもう少しゆったりと電車から降りられたのではないか。」との意見も。

夜のあじさいは照らし方次第でさまざまな顔を見せてくれる。山間に咲く花を一番美しく照らすのが太陽であることは否めないが、ライトアップにもさまざまな工夫の余地があることを実感した街歩きだった。

(向田麻衣)



暗い電車内からのあじさい撮影



闇が深まるにつれ、おどろおどろしい表情へ



宮ノ下駅のカラーライティング前で

(あじさい電車 HP : <http://www.hakone-tozan.co.jp/ajisai/index.html>)

第32回 研究会サロン

箱根街歩き、東京調査、Light+Building2006 など
2006.7.7

小川 祐樹

今回のサロンは港区芝にある ERGO TOTO のオフィスをお借りして行われました。

いつもとは違った雰囲気で行われたサロンは街歩き、東京調査、2つの国際照明見本市、キャンドルナイトの報告という盛りだくさんの内容となりました。

■箱根街歩き報告「夜のあじさい号」

6月28日に行われた箱根街歩き「夜のあじさい号」の報告が行われました。

「夜のあじさい号」とは、ライトアップされたあじさいの中をあかりを落とした電車で走り抜けるという、この季節ならではの特別列車です。

この「夜のあじさい号」に乗るべく、探偵団一行ははるばる箱根まで行ってきました。

10分間ほどの映像と団員の皆さんが撮った写真が紹介され、暗い車内と闇夜に浮かぶ美しいあじさいがとても印象的でした。



小川基世団員による街歩き報告



話に聞き入る団員のみなさん



テーブルの上には黄色いスプレーマムの花

■東京調査報告 日本橋川・隅田川

6月7日に行われた東京調査 in 日本橋川&隅田川の報告が行われました。

隅田川にかかる個性的にライトアップされた橋も印象的でしたが、久保団員の堤防に着目した報告から、見た目の華やかさだけでなく水辺を快適に歩けることの大切さに改めて気付かされました。また、谷川団員の報告からは、日本橋川の上を通る高速道路の高架の影響で、ライトアップされた日本橋を眺める視点がないという現状が紹介されるなど、今回の調査報告には考えさせられることばかりでした。

■Light+Building2006 調査報告

4月末にフランクフルトで行われた世界最大の国際照明見本市、Light+Building2006の報告が岡本団員より行われました。丸2日かけても回りきれないという見本市のスケールにも驚かされましたが、同時期に行われていた街中を光で彩るライトアップイベント luminaire の報告がとても興味深いものでした。中でも57台の投光器によって20万lxもの明るさを再現したという空間が特に印象的で、一度は体験してみたいと思わせるものでした。

さらに ERGO TOTO の中村団員からは Light+Building での ERGO の展示風景やコンセプトが紹介されました。どの写真にも必ず写っている鮮やかな黄色の花（世界中の ERGO のオフィスには必ず置かれている花だそうです）がとても美しく、印象的でした。

■Lightfair International2006 調査報告・シンガポール照明実験報告

面出団長からは5月末にラスベガスで行われた Lightfair International2006 の報告が行われました。先に紹介された Light+Building との違いが比較しやすい構成だったので、興味深く聞くことが出来ました。

また、シンガポールでは交通量の多い交差点の横断歩道に映像をプロジェクションするという計画が進められており、その実験風景の紹介も合わせて行なわれました。街の一角を変容させる抽象的な光の表現は、写真で見ても十分にエキサイティングな風景でした。今年の11月には実現するそうなので、シンガポールに行かれる機会のある方は、実際に体験してみてください。

■キャンドルナイト@Omotesando - Eco Avenue の報告

最後は6月21日夏至の日に表参道で行われたキャンドルナイト@Omotesando-Eco Avenue の紹介です。キャンドルナイトは「でんきを消してスローな夜を。」をスローガンに毎年夏至と冬至に行われているイベントで、照明探偵団としての参加は今回で6回目。サロンではキャンドルのあかりで演出されたカフェや大学生らによるキャンドルインスタレーションなど当日の風景が紹介されました。中でも自作キャンドルを手薄暮の表参道を行進する小学生の笑顔がとても印象的で、当日の楽しそうな雰囲気が伝わってくるようでした。



20万lxの照明空間



Singapore 照明実験風景

(小川祐樹)

キャンドルナイト @Omotesando - Eco Avenue 2006 夏至

6月21日夏至の夜、今年も表参道でキャンドルナイトが行われました。
元々は環境NGOが中心となって始めた取り組みですが、今回も全国で500にも及ぶイベントが行われたようです。

2006.6.21

■キャンドルナイト @Omotesando - Eco Avenue
照明探偵団が関わるキャンドルナイトがキャットストリートから表参道に場所を変えて、今回で3回目。毎回試行錯誤を繰り返しつつ、新たなチャレンジもしています。
今回のキャンドルナイトは、表参道沿いのお店などを借りて行われる『キャンドルインスタレーション』、表参道周辺のカフェを巻き込んだ『キャンドルカフェネットワーク』、そして、神宮前小学校の子供たちによる『子供たちのキャンドルリサイクル大作戦!』の三本柱。
夜8時から10時までの2時間、同時多発的にあちこちで灯されるキャンドルのあかりが、表参道の通りに広がっていきます。



ダイナミックな人間影絵



準備をするスタッフたち



キャンドルを手に子供たちが行進!

■子供たちとキャンドルの行進

8時からのイベントに先駆けて、子供たちの行進が神宮橋からスタートしました。手に手にしっかりと抱えているのは、1週間ほど前の図工の時間に自分たちで作ったキャンドル。それも、一度使用されただけで廃棄されてしまう運命にあったキャンドルを集めて再利用してつくったリサイクルキャンドルです。色とりどりのお気に入りのキャンドルを手に、いざ出発!

表参道が地元の小学生にとって、けやき並木はいつもの歩き慣れた通りのはず。しかし、自分のつくったキャンドルを携えて歩くという経験は格別だった様子。「見て見て!ぼくのが一番キレイ!!!」、「ロウが溶けて水みたいになってるよ!」と口々に大騒ぎしながら歩きました。

キャットストリート入口のインスタレーションの点火式に参加してから、本部テントに自分のキャンドルを並べて、行進は無事終了です。ご父兄も含めて100名以上が参加して下さいました。



みんなで記念撮影

■キャンドルがつくる風景

表参道を舞台に大学生が担当するインスタレーションが計5箇所で開催されました。キャットストリートの渋谷側の入口には氷のキューブを並べた涼しげな作品が出現。ここでは手にキャンドルを持って行進してきた子供たちがその火を灯すというセレモニーも行われました。オリエンタルバザー前には巨大スクリーンが設置され、影絵が行われるという粋な演出が。幾段にも重ねられたキャンドルの前のスクリーンには、大きなケヤキのシルエットが浮かび上がります。後ろのスペースに人が入るとダイナミックな人間影絵の始まりです。すぐ近くの看護協会公開空地では階段を巧みに使って、白いコーン型のキャンドルスタンドが登場。消灯にもご協力頂いて、背景の闇がロウソクのわずかなあかりを引き立てます。



キャットストリート入り口の氷のキューブ



TOKYO UNION CHURCH 音符をモチーフにしたキャンドル

たくさんの人が交錯する神宮前交差点に位置する八千代銀行前は、透明の傘を使った作品です。葉っぱの形のメッセージカードに願いを託して貼っていく・・・というもの。キャンドルと願い、関係の深いものをうまく結びつけた作品でした。TOKYO UNION CHURCH では教会という場所から、賛美歌→音符と連想して、音符型の透明な瓶にキャンドルを入れて並べました。ガラスの扉に炎が映り込んで増幅され、奥までずっとキャンドルの道が繋がっているように見えます。



■カフェでもキャンドルナイト

今回は表参道周辺のカフェ・7店舗も巻き込んで、キャンドルナイトを行いました。夜の営業時間中はふだんもキャンドルを点灯しているお店が多かったですが、学生たちの趣向を凝らした作品の数々を楽しんでいただくことができたのではないかと思います。オーガニックな素材を使ったカフェでは有機野菜をかたどったもの、フルーツパーラーでは果物を使ったジャム瓶をキャンドルホルダーにしたもの、エコがテーマのお店では植木鉢に植えられたお花のようなキャンドル・・・などなど、お店の雰囲気やモットーをキャンドルというかたちで表現していきました。

世界に名だたる表参道というメインストリートのスケールの中で、ほのかなキャンドルのあかりがどれだけメッセージを伝えられるのだろうか？という不安もありましたが、訪れた人たちがひとつひとつの作品を巡りながら楽しんでくれている様子を目にして、ほっとした夏至の夜でした。

(田沼彩子)



BAKERY CAFE 426 HARAJUKU



カフェでもキャンドルナイト

【照明探偵団の活動は以下の 21 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社
岩崎電気株式会社
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
松下電工株式会社
株式会社ウシオスペース
ヤマギワ株式会社
山田照明株式会社
マックスレイ株式会社
ニッポ電機株式会社
株式会社エルコ・トートー
株式会社ウシオライティング
日本フィリップス株式会社
トキ・コーポレーション株式会社
東芝ライテック株式会社
大光電機株式会社
株式会社 MARUWA
小泉産業株式会社
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社
ルイス ポールセン ジャパン株式会社
湘南工作販売株式会社
株式会社遠藤照明

